市川駅南口図書館
えきなん音楽だより
Vol.13
2024.5
発行／市川市市川駅南口図書館（指定管理会社・㈱ヴィアックス） 〒272-0033 市川市市川南1-10-1 I-linkタウンいちかわザタワーズウエスト3階

新緑の季節をクラシックと♪

音楽を読む

『ヴィオラ母さん』 ヤマザキ マリ
（スタッフ・I）

大ヒット漫画『テルマエロマエ』の作者であるヤマザキマリさんが、その創作の背景に実は音楽との深いかかわりがあったことはご存知でしょうか。本書『ヴィオラ母さん』では、マリさんの母リョウコが札幌交響楽団の女性メンバー第一号として、女手一つで娘二人とヴィオラを抱えて奮闘した姿が語られています。

娘達がリョウコに振り回された数々の逸話がありますが、その中でも母親業と演奏家の両立という点で衝撃的なのが子連れ演奏会です。コンサート会場の最前列に姉妹を座らせ、演奏中に娘たちの集中力が切れそうになると、リョウコは指揮を無視して舞台上から睨みつけていました。子どもにとって拷問のような時間でしたが、マリさんは「シベリウスやショスタコーヴィチなどを無理に聞くうちに、妄想を膨らませて遊ぶ癖がつき、今でも音楽を聴くことが創作の源となっている」と語っています。

リョウコが所属していた札幌交響楽団や親子の思い出が詰まった曲は、ナクソスに収録されていますので、是非本書と一緒にお楽しみください。

『ヴィオラ母さん』
ヤマザキ マリ
出版社：文藝春秋
請求記号：726.1ヤ
駅南図書館所蔵あり

ナクソスにログインしてアクセス！ ▶▶▶ マリさんが幼い頃無意識に聴いていたというショスタコーヴィチやシベリウスの交響曲、また当時の演奏ではありませんが札幌交響楽団の演奏はナクソスで聴いていただけます。本書と共に聴いていただくとまた新たな味わいがあるかもしれませんね。

クラシックにふれよう

『ダンテ交響曲』 フランツ・リスト
（スタッフ・H）

世界文学、古典文学として高い評価を得ているダンテの『神曲』は、地獄篇・煉獄篇・天国篇から構成され、ダンテ自身が歴史上の偉人と出会いながら天国に向かう物語です。ダンテは、この戯曲のタイトルを悲劇ではないことから『喜劇』と呼んでいましたが、1555年刊行のヴェネツィア版より『神聖喜劇』となります。その後、森鴎外がアンデルセンの『即興詩人』を訳した中で『神曲』と冠したことから、日本ではこのタイトルで有名になりました。

古典文学は敷居が高そう、と考えている方もいるかもしれません。そんな方は音楽から入ってみるのはいかがでしょうか。ダンテを愛読していたフランツ・リストは、この作品から『ダンテの『神曲』による交響曲』を作りました。すでに読んだ方も、これからの方も、ぜひナクソスもお楽しみください。

ナクソスにログインしてアクセス！ ▶▶▶ 『ダンテ交響曲』には『天国篇』がありません。これは作曲したリストが、ワーグナーから「天国を表現することはできない」と言われたからだそうです。地獄と煉獄はナクソスで感じることができますが、天国は本だけのもの。ぜひ図書館の本を開いてみてください。

音楽とわたし

受話器から聞こえるクラシック （スタッフ・H）

音楽に関する記憶で真っ先に思い浮かんだのは、電話の保留音。電話対応の多い仕事をしていた時、相手の「お待ちください」の後、保留に切り替わると流れ出す音楽。「メヌエット」「愛の挨拶」「四季（春）」それらは授業で聞き覚えのあるものばかりで、社会人なりたてだった私はその懐かしさと優しいメロディに、ほんのり癒されていた。（たまに大音量で流れ出す時もあってびっくりするが）今また久々に聴いても、当時の苦い経験をなんとなく心地良い感じに回顧させてくれるので、やはり音楽の力はすごい。それにしても、この記憶が一番に思い出されるのもちょっと切ないので、もう少し音楽に耳を傾ける生活を送りたい。

編集担当のひとこと

新年度を迎え、今年も紙面を通してちょっとしたクラシック音楽に関わるお話をさせていただけたらと思います。ナクソス・ミュージック・ライブラリーとともにお楽しみください。ナクソス・ミュージック・ライブラリーは館内データベースパソコンで、また貸出制のID・パスをご利用いただきご自宅のパソコンからもご利用いただけます。